



野の花 こよみ

文写真 矢加部 和幸

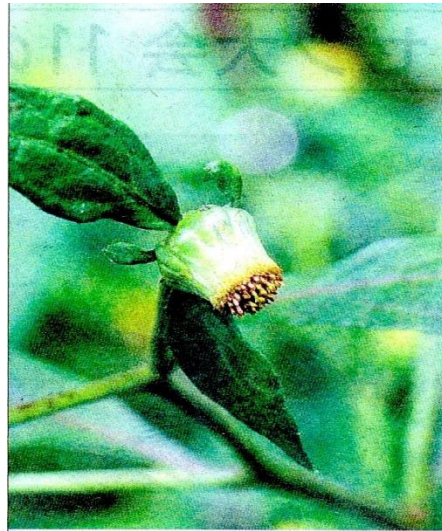
ハマニガナ

(浜苦菜)

すっと伸びた茎の葉の付け根ごとに、先端がわずかに黄色の小さな頭花が下向きに咲く。頭花の基部には細長い大きな苞が2〜4個。一見すると葉のようでもある独特の姿。苞が枝の先に行くほど大きくなっているのも他にない特徴だ。名前は下向きの頭花をキセルのがん首に見立てた。

【キク科 頭花6〜8mm 草丈0.3〜1.5m 花期6〜10月 分布・本州、四国、九州】

2015.12.2



野の花 こよみ

文写真 矢加部 和幸

ガンクビソウ

(雁首草)

砂浜に咲く、意外と大きな黄色の花に驚かされる。環境の厳しさを感ぜさせない、か弱そうな花は、舌状花が集まった頭花。砂の中をほう長い地下茎の所々に葉を付け、10cmほどの花茎を立てる。イチヨウの葉に似た葉は厚く、砂をかぶってもすぐに姿を現すたくましさも持っている。夏から秋まで長い間咲くのも、いかにも海岸の花。

【キク科 花2〜3cm 分布・日本全土】

2015.12.1



野の花 こよみ

文写真 矢加部 和幸

ミツバフウロ

(三つ葉風露)

すらりと立ち上がった極細の茎に、白い小さな頭花がまばらに咲く。透明感のある筒状花で、先が二つに分かれた雌しべが、長く突き出したユニークな格好だ。三角形の葉をコウモリの皮膜に見立てた名前だが、薄暗い林床に生える姿は、その名にぴったりに。関東から近畿の山に生え、南アルプスに多い。しばしば群生する。

【キク科 頭花0.8〜1cm 草丈60〜90cm 花期8〜10月】

2015.12.6



野の花 こよみ

文写真 矢加部 和幸

コウモリソウ

(蝙蝠草)

「風の露」という雅趣な名前にふさわしいすがすがしい花。薄いピンクの5枚の花弁には濃い赤紫色の筋が入り、中央に雌しべと雄しべが集まって立ち上がる。花弁の形は丸いものから細長いものまで変化に富む。この仲間によく似て区別が難しいが、腺毛が多いのが特徴。名の通り葉は3裂し、毛深い。

【フウロソウ科 花1〜1.5cm 草丈30〜80cm 花期7〜10月 分布・全国】

2015.12.4



花の野 よご

レモンエゴマ

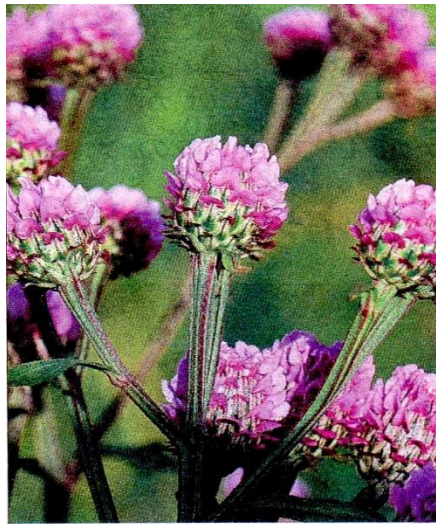
(檸檬苧胡麻)

文写真 矢加部 和幸

淡紅色の小さな唇形花が葉の頂から伸びた花茎に並んで咲く。がく片に長く白い毛が密生するので毛むくじゃらだが、案外愛らしい。長い葉柄のある丸い大きな葉はエゴマやゴマにそっくりで、葉をもむとレモンの香りがする。いかにも移入植物のような名前だが、れっきとした自生種だ。精油をとる。

【シソ科 花4~5センチ 草丈20~70センチ 花期8~10月 分布・本州、四国、九州】

2015.12.8



花の野 よご

ヒメヒゴタイ

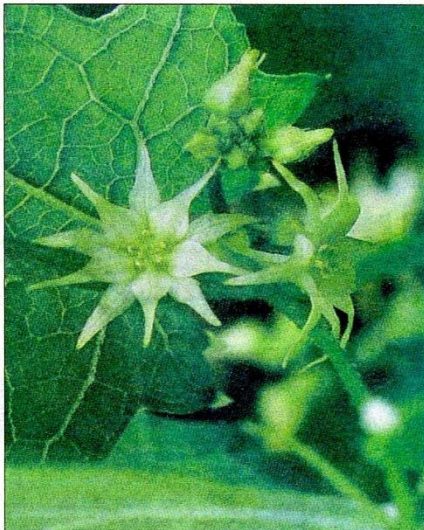
(姫平江帯)

文写真 矢加部 和幸

青空の下、アザミに似た紅色の花は一段と鮮やかだ。草むらから伸びた茎は枝分かれして、先端に筒状の小花が集まった頭花をつける。頭花の総苞の先端も花弁と同じく紅色。牧野日本植物図鑑も「頗ル美ナリ」と記す。ヒゴタイは諸説あるが、「仏家の平江帯(ひごたい)に似る」もの一つ。

【キク科 花1.5センチ 草丈0.4~1.1メートル 花期8~10月 分布・全国】

2015.12.9



花の野 よご

ゴキツル

(合器蔓)

文写真 矢加部 和幸

星形の白い花が房になって咲き乱れ、雑然とした印象だが、一つ一つの花は繊細でしゃれていいる。一見、10枚花弁の花のようだが、筒状の花弁が深く5裂し、がく片も同様な形をしたもの。花房の上部は全て雄花で、雌花は基部に1個。果実が熟すと横に割れて、上半分がふたのように開く。その様子を合器に見立てた。

【ウリ科 花1センチ つる植物 花期8~11月 分布・全国の水辺】

2015.12.10



花の野 よご

エノコグサ

(狗尾草)

文写真 矢加部 和幸

小型のブラシそっくりの毛むくじゃらの穂を犬の尾に見立てた名前が、英名は「フォックステール・グラス」。別名はネコを遊ばせる「猫じゃらし」。こちらの方がぴたりくる。この仲間も全国どこにでもあつてどれもよく似るが、エノコグサは3~6センチの円柱形の穂に緑色の剛毛が密生し、やや垂れるのが特徴。

【イネ科 花2~2.5センチ 草丈50~80センチ 花期8~11月】

2015.12.11



花の野 よご

シラヤマギク

(白山菊)

文写真 矢加部 和幸

秋の風情たっぷりの白菊に見えるが、中央の黄色の筒状花に比べ舌状花の数が少なくまばらで、ちよつと物足りない。赤みがかつた茎や葉には短毛が密生し、触るとガサガサする。シオンの仲間にしてはあまり優雅さを感じさせない。下部の葉の葉柄に翼があるのが特徴。ムコナと呼び、若菜を食べる。

【キク科 頭花1・8〜2・4^枚 草丈1〜1.5^尺 花期8〜10月 分布・全国】

2015.12.12



花の野 よご

ダンギク

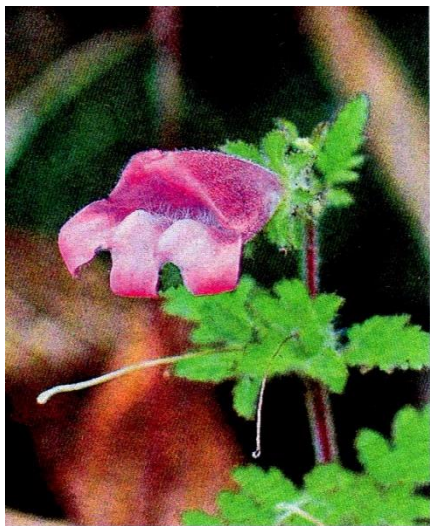
(段菊)

文写真 矢加部 和幸

キクに似た葉の付け根ごとに、青紫色の小さな筒状花が密に輪生する。花弁の先端は5裂し、先が二つに分かれた雌しべと4本の雄しべが長く突き出した個性的な花だ。下から段々になって咲き上がる。長崎県対馬や九州西北部の限られた岩場などに咲く珍種。ちよつとエキゾチックで美しく、しゃれているので、盗掘が絶えない。

【シソ科 花7^{ミリ} 草丈50〜70^{センチ} 花期9〜10月】

2015.12.15



花の野 よご

コシオガマ

(小塩竈)

文写真 矢加部 和幸

淡紅紫色の唇形花は、名前に反して意外と大きい。葉や茎に埋もれるように1個ずつ咲き、秋の風に気持ちよさそう。上唇弁は反り返り、下唇弁は横に広がって3裂する。中央の裂片に、紅紫色の斑点と長い毛が生えた盛り上がりがある。独特の風貌は印象的だ。全身に腺毛が生え、触るとべたべたするほど。

【ハマウツボ科 花2^{センチ} 草丈30〜60^{センチ} 花期9〜10月 分布・日本全土】

2015.12.16



花の野 よご

ヤマジノギク

(山路野菊)

文写真 矢加部 和幸

周囲は淡い青紫色の舌状花、中央は黄色の筒状花という、いわゆる野菊は区別が難しい。粗い毛が生えた茎がよく枝分かれし、葉が細いのが特徴だ。決め手は子房の頂端に生える冠毛。舌状花は短く、筒状花は著しく長い。目を凝らさないといけないうが、違いがはっきり分かって感動ものだ。

【キク科 頭花3〜5^{センチ} 草丈0.3〜1^尺 花期9〜10月 分布・東海地方以西、四国、九州】

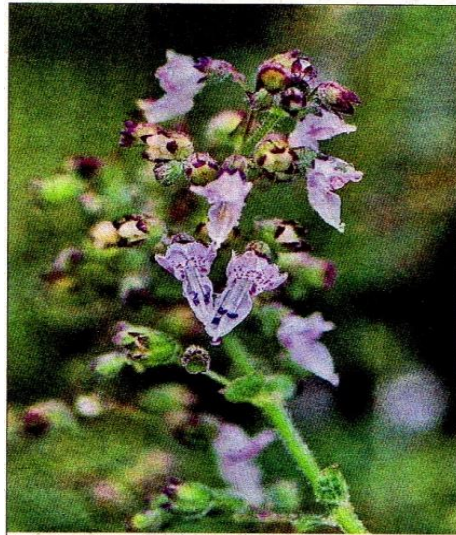
2015.12.17

花のよみ

文写真 矢加部 和幸

ヒキオコシ

(引き起し)



茎の頂ごく淡い紫色の小さな花が円すい形の穂になって咲く。先が2裂した唇形花。上唇は反り返って紫色の斑点があり、下唇は舟形で下に突き出す。独特な格好で案外愛らしいが、まばらに咲くので写真に撮りにくい。葉も茎もかむと強烈に苦く、病人をも引き起こすほどというので、その名が付いた。

【シソ科 花5〜7mm 草丈0.5〜1.5m 花期9〜10月 分布・全国】

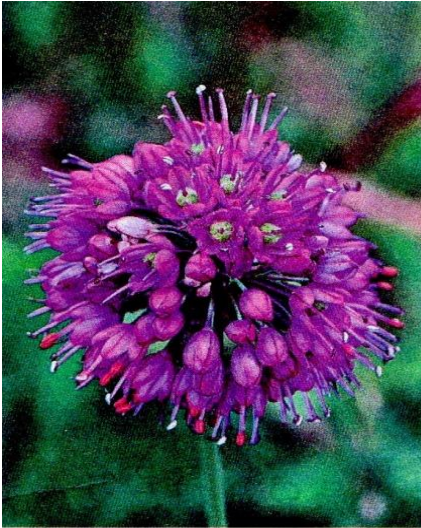
2015.12.19

花のよみ

文写真 矢加部 和幸

ヤマラッキョウ

(山辣蕪)



紅紫色の小さな花が、細い花茎の先に多数集まって咲き、まるでかんざしを地面に突き刺したよう。花被片は丸く、中から6本の雄しべが突き出す。雄しべも紅紫色で、一段とにぎやか。湿気のある草原に群生し、一帯を赤く染めた光景は、晩秋の瞬間の輝きとでもいえるほど華やかだ。葉は円柱状。

【ネギ科 花6mm 草丈30〜60cm 花期9〜10月 分布・福島以南の本州、四国、九州】

2015.12.18

花のよみ

文写真 矢加部 和幸

リンドウ

(竜胆)



さわやかな青紫色の大きな花は、まさに晩秋の山野の女王。花はラッパ状で、先端は5裂し、裂片の間に副片のある個性的な格好だ。細い茎の頂などに数個の花をつけ、重そうに横にはったり、もたれかかったりして咲く。花は日光のもとで開き、雨の日や夜は閉じる。根を竜胆といい、健胃薬とする。

【リンドウ科 花4〜5cm 草丈20〜80cm 花期9〜10月 分布・本州、四国、九州】

2015.12.21

花のよみ

文写真 矢加部 和幸

キッコウハグマ

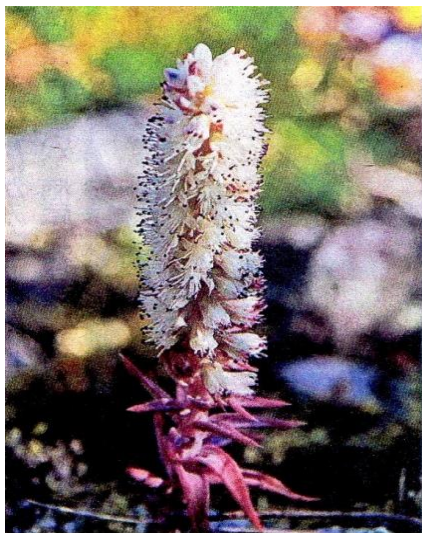
(亀甲白熊)



真っ白の小さな花が、すっと伸びた花茎に数個並んで咲き、薄暗い林床でぽつと浮き上がって見える。3個の小花が集まった頭花だ。それぞれの花弁が五つに細く裂けているので、3本の雌しべと15枚花弁を持った、端正で美しい花に見える。根元にある1〜3cmの小さな五角形の葉を、亀の甲に見立てた名前。

【キク科 頭花1cm 草丈10〜30cm 花期9〜10月 分布・全国の山野】

2015.12.20



花の野 よみご

文写真 矢加部 和幸

ツメレンゲ

(爪蓮華)

真つすぐ立ち上がった花茎に、白い小さな花が密に咲く。一つ一つの花は先がとがった5枚の花弁。中に鮮やかな暗紅色の葯を持つ雄しべが10本。サボテン同様に貯水能力が高く、岩場や屋根瓦など水気が乏しい所に群生し、印象深い景観をつくる。先端がとがった葉を爪に例えた。

【ベンケイソウ科 花5〜6
草丈6〜20センチ 花期9〜11
月 分布・関東地方以西、四国、
九州】

2015.12.22